

※300部限定配本

トロイカ人生に導かれて

黒川知文自伝

劣等感・人間不信・孤独からの救いと新生

教育者として、牧会者として生きた著者が、自らの半生を歴史研究の対象とし、若くして神と出会い、神からの使命を自覚するまでとその後の歩みを、さまざまな一次資料から客観的にふり返る。文学作品受賞作含む。

著者紹介

黒川知文（くろかわ・ともぶみ） 1954年香川県小豆島生まれ。高松高校、東京外国語大学卒。政府奨学生としてヘブライ大学に留学。一橋大学博士課程、エール大学博士課程、東京大学博士課程で歴史学と宗教学を専攻して1995年文学博士（東京大学）。東京基督教大学、愛知教育大学、慶應義塾大学、東京外国語大学、東京大学、南山大学大学院、中央学院大学、明治学院大学等で歴史を講じた。主な著書に『世界史への問い』（岩波書店、1990年）、『ロシア・キリスト教史』（教文館、1999年）、『一神教文明からの問いかけ―東大駒場連続講義―』（講談社、2012年）、『ロシア正教のイコン』（監修創元社、2011年）、『西洋史とキリスト教』（教文館、2016年）、『ユダヤ人の歴史と思想』（ヨベル、2018年）、『人々がつなぐ世界史』（ミネルヴァ書房、2019年）、『マックス・ヴェーバーの生涯と学問』（ヨベル、2021年）、近著に『講義 宗教の「戦争論」』（山川出版社、2024年）がある。神学博士（Ph.D）湖北パークサイドチャペル主任牧師、国立大学法人愛知教育大学名誉教授。2020-2024年賀川豊彦記念松沢資料館館長。2025年から賀川豊彦学会会長。

